

## 運動不足が世界の経済負担に

世界的に広がっている運動不足は、慢性疾患の拡大や早期死亡に関連するといわれている。これまでに疾病負担については報告があるものの、運動不足の経済負担について世界的なレベルでの定量化はされていない。経済負担をよく理解することでリソースの優先順位付けに関する情報が得られ、運動量の増大への世界的な取り組みを促進することにつながると考えられ、本研究では142か国について運動不足に起因する経済負担を推算した。

運動不足に起因する直接的医療費、生産性損失、障害調整生命年（以下、DALY；疾病負担の指標。病気・障害・死亡により健康生活が失われた年数を表す）を標準化手法および142か国（世界人口の93.2%）から得られたデータを用いて推算した。その結果、2013年の世界の運動不足による医療費は保守的に見積もって538億ドルと推算された。そのうち312億ドルは公的セクターが、129億ドルは民間セクターが、97億ドルは家庭によって支払われていた。疾患別では、50億ドルが冠動脈疾患、60億ドルが脳卒中、2型糖尿病は376億ドルであった。また、運動不足による死亡がもたらした生産性損失は137億ドル、DALYは1,340であった。高所得国では経済負担の占める割合が大きく（医療費の80.8%）、低・中所得国では疾病負担の占める割合が高かった（DALYの75.0%）。

したがって、運動不足は経済負担の大きな要因となっていることが明らかとなった。今回の結果は、非感染性疾患を減らすための包括的戦略の一部として、世界中で定期的な運動の促進を優先すべきであることを示している。

出典：Lancet. Published online Jul 27, 2016; pii: S0140-6736(16)30383-X